

ミュージアムタワー京橋にて 「WORK with ARTプロジェクト」が始動

株式会社永坂産業（代表取締役 高橋康紀）が所有・管理する「ミュージアムタワー京橋」は、2024年11月の「京橋彩区」グランドオープンに合わせ、オフィスビルにおけるあらたなプロジェクトを始動します。

コンセプトは、「WORK with ART」。

アート（以下「ART」）を単なる鑑賞物としてではなく、五感を刺激する体験と捉え、働く人々に創造的な働き方を促進するさまざまな環境を提供。

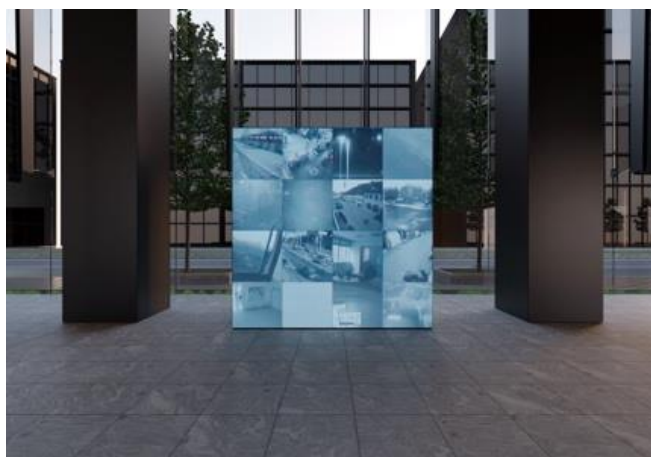
組織やビジネスパーソン「創造性」を高めるビルへと段階的に変貌させ、未来のオフィスビルの1つの姿を提案します。

「このビルで働くと、視野が広がり、視点が変わる。そして思考が活発になる」。

このプロジェクトでは、ビジネスパーソン「発想」を刺激し創造的な働き方を促すビルになることを目標に WORK と ART の関係を探り、創造性を向上させる仕掛けを設けます。今回のプロジェクトでは、1階のエントランスから3階のオフィスロビーへ通じる共用部の使い方を緻密に計画し、エリアごとに異なる3つのテーマを設定しました。

テーマ：「視野の解放」

1階エントランスロビー



Dumb Type 作品「世界につながる窓」（画像はイメージです）

1 階エントランスロビーでは、「視野の解放」をテーマとしたパブリックアートを展示します。2023 年にアーティゾン美術館でヴェネチア・ビエンナーレ帰国展を開催した、アートコレクティブ（アーティストによって形成された集団）の先駆的存在である「Dumb Type（ダムタイプ）」の作品です。

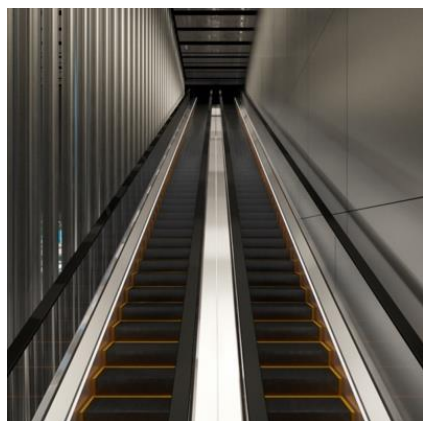
世界で公開されている「ライブカメラ」の映像をリアルタイムに収集。それらを 1 枚の窓に見立てて組み合わせることで、ビルにいながらも様々な外的世界と通じる感覚を得ることができるオリジナル作品です。ART への関心があまり高くない人にも興味を抱いてもらえるほか、日常と異なる視野や視点への変化が、ビジネスパーソン意識変革・行動変容を促します。

なお、Dumb Type（ダムタイプ）によるパブリックアートは本作品が初めての試みです。

テーマ：「気分の変容」

1階～3階エスカレーター

1 階と 3 階をつなぐエスカレーターでは、エンジニア集団 nomena の監修による音楽作品を展開。エスカレーターに乗っている時間を音楽体験のタイムラインと捉え、機械の動作音を楽曲の一要素として取り込むことで、行き交うビジネスパーソン感覚をささやかに刺激し、プライベートとワークのスムーズな切り替えを促します。作曲・演出は、ミラノ・サローネの企業展示などの音響演出やダンサー田中泯氏の舞台音楽を手がけた高橋琢哉氏を起用。



楽曲「Nature Soundscape」（画像はイメージです）

テーマ：「心身の整調」

3階オフィ스로ビー

3階オフィ스로ビーのテーマは「心身の整調」。武蔵野の森をコンセプトとした植栽をロビー中央に設置し、その周りに待合スペース、ワークスペース、ミーティングスペースの3つの機能を備えたエリアを配置しています。

空間設計はIIN（アイイン）の湯山皓氏が担当。静的で美しい仕上がりの空間と穏やかな光のコントラストが、滞在する人々に心地よいインスピレーションを与えます。



「3階オフィ스로ビー」（画像はイメージです）

また「音」の観点からも外部環境の内部化をコンセプトに設計。武蔵野の森の音をテーマに制作されたフィールドレコーディングを含む様々な音をプログラムし、季節や天候に応じて音環境を変化させることで、ビルの中にながらも自然の移ろいが感じられる空間を演出しています。この作品も nomena が監修し、高橋琢哉氏が楽曲を提供しました。

さらに本プロジェクトでは、WORK と ART の融合を科学的な見地からも追求。これらの五感に作用する仕掛けとしての ART が、組織やビジネスパーソンの創造性にどのように寄与するかを今後分析・検証する予定です。

参加メンバー

< Dumb Type (ダムタイプ) >

ヴィジュアル・アート、建築、コンピューター・プログラム、音楽、映像、ダンス、デザインなど多様な分野のアーティストによって構成されるグループ。美術、演劇、ダンスといったあらゆる表現の形態を横断する活動は、現代社会における様々な問題への言及をはらむ作品を制作し、多くの作品が世界中で上演されている。第59回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示（2022）他。



Dumb Type

<nomena (ノメナ)>

2012 年設立のエンジニア集団。日々の研究や実験、クリエイターやクライアントとのコラボレーションを通して得られる多領域の知見を動力にして、前例のないものづくりに取り組み続けている。近年では、宇宙航空研究開発機構 JAXA など研究機関との共同研究や、東京 2020 オリンピックにおける聖火台の機構設計などに参画。主な受賞歴に、文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞（2022）、DSA 日本空間デザイン賞金賞（2017）他。



nomena 武井 祥平

<高橋琢哉>

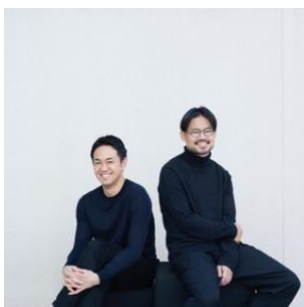
作曲家、音楽プロデューサー。Oyster Inc.代表。音楽を通じた場所と空間の体験、アンサンブルの可能性をテーマに活動。1999～2007 年はダンサー田中泫のほぼ全ての公演で音楽を現場演奏で担当。広告や映画等への楽曲提供の他に、国内外のアートインスタレーションや公共空間の音演出も多数手がける。夢や魔術などと同様に、音楽を自然と人の内面を往来する回路として捉え、表現形式にとらわれず活動している。Cannes Lions、Red Dot Award、DSA 日本空間デザイン賞など、音響演出案件の受賞歴多数。



音楽家 高橋琢哉

<I IN (アイイン)>

I IN は 2018 年に東京で設立されたインテリアデザインオフィス。店舗、レストラン、オフィス、住宅、インスタレーションなど幅広い分野の空間デザインにおいて、モダンラグジュアリーの世界を追求している。突き抜けた美しさのあるインテリアからは豊かな未来を感じさせ、人々の記憶に残るデザインは国内外で評価を受けている。主な受賞歴に、INTERIOR DESIGN BEST of year（2020,2022,2023）他多数。



I IN 湯山 皓（右）/ 照井洋平（左）

補足

<ヴェネチア・ビエンナーレ>

1895年にイタリアで開幕した世界でもっとも歴史のある国際美術展。参加国が自前のパヴィリオンを持ち自国作家の先鋭的な作品を展示するのが特徴で、世界からの注目度が高く現代美術の国際展として確固たる地位を確立している。

<ミラノ・サローネ>

1961年より開催している国際家具見本市。世界各国の最新の家具・インダストリアルデザイン・インテリアデザイン・テキスタイルデザインなどを展示。家具・デザイン関係の見本市としては世界最大規模で、デザインの最新トレンドを見ることができる。

<文化庁メディア芸術祭>

文化庁が主催し、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバル。

<DSA 日本空間デザイン賞>

空間デザインの価値を未来へ繋ぐために設立された日本最大級のデザインアワード。新しいデザイン価値や国内外の優れた人材の発掘を実現し、次世代の指標となるためのプラットフォームを構築している。

<INTERIOR DESIGN BEST of year Award>

アメリカ・ニューヨークを代表する空間デザイン誌『INTERIOR DESIGN（インテリアデザイン）』が主催し、その年の最も重要なプロジェクトや製品を称え、世界中のデザイナー、建築家、メーカーを表彰する、デザイン業界随一のデザイン賞プログラム。

【本件に関する報道のお問い合わせ】

「WORK with ART プロジェクト」広報事務局（共同ピーアール内）

担当：橋本、中込、安田、菅原

TEL：090-7909-2732（橋本）、090-7739-3601（中込）、090-7909-5164（安田）

Email：mtk-pr@kyodo-pr.co.jp